

短報

アオダイショウの胴体中央部における新たな体鱗列数の記録

三保尚志¹・阿部浩志¹

¹森のフィールド学舎 : 〒379-2304 群馬県太田市大原町2573-11
(morinomanabiya168@gmail.com)

要旨 : 2023年4月23日埼玉県飯能市において捕獲したアオダイショウの胴体中央部における体鱗列数が³, これまでに記録のない27列であった.

キーワード : アオダイショウ, *Elaphe climacophora*, 体鱗列, 埼玉県

The new record of dosal rows number at mid-body of Japanese ratsnake *Elaphe climacophora*

MIHO Hisashi¹ and ABE Koshi¹

¹Mori No Field Gakusha : 2573-11, Oobara Cho, Ohta City, Gunma, 379-2304 Japan
(morinomanabiya168@gmail.com)

Abstract: The Japanese ratsnake *Elaphe climacophora*, captured in Hanno City, Saitama Prefecture on April 23 2023, exhibits a distinctive feature of 27 dorsal rows in mid-body. This observation represents a novel finding not documented previously.

Key Words: Japanese ratsnake, *Elaphe climacophora*, Dorsal rows, Saitama Prefecture

はじめに

これまでアオダイショウ *Elaphe climacophora* (Boie, 1826) の体鱗列は、胴体中央部にて23列まれに25列の2パターンが記録されている (中村・上野, 1963 : 日高ほか, 1996 : 松井・森, 2021). 著者らは、埼玉県を中心に様々な生物調査などを行っており、著者のひとり三保は捕獲したヘビ類のうち、幼蛇や有毒種などカウントしにくい種や個体を除き、調査エリア内での生息個体数を把握するための個体識別に、鱗の増減に関するデータを取っている. 2023年に行った調査の中で、埼玉県飯能市内で、胴体中央部ではこれまでに記録のない体鱗列数を持つアオダイショウ1個体を見つけたのでここに報告する. この個体は、2023年11月現在も、三保宅にて飼育中である.

記録方法

本調査での記録方法は、捕獲したヘビ類の捕獲年月日、捕獲時の気温、種、学名、性別、頭胴長、尾長、全長を記録し、鱗のカウントはDowling System (James, 1964) に従

い、腹板脇の体鱗から反対側の腹板脇の体鱗までを斜め、ないしはジグザグで数える. 大抵は数のもっとも安定している胴体中央部のみを数えることが多いが、著者らは個体識別のため、これを腹板10枚目付近、胴体中央部、総排出腔付近の体鱗列数を調べ、腹板のどの位置で体鱗列が増減するかを記録している. 体鱗列の記載方法は、例として「120枚目の腹板の位置で5列目の体鱗が5枚目と6枚目に分かれる」場合は「5=5+6 (120)」と記載、また同じように体鱗列が逆に減る場合は、「5+6=5 (120)」といった具合で記載する.

そのほか腹板数、尾下板数、肛板数、頭部の鱗のうち、上唇板、下唇板、眼前板、眼後板、側頭板数、前後の咽頭板の大きさの比較を記録する. 上唇板は総数のうち何枚目が眼に接するかを記録し「8枚の上唇板のうち前から4番目と5番目が目に接する」場合は「8 (4, 5)」と記載する. 側頭板においては、前から何枚ずつあるかを方骨付近までを数え「前から方骨付近まで2枚と3枚」の場合は「2+3」と記載する.



図1. 27列の体鱗列を持つアオダイショウが見つかった場所（飯能市天覧山ふもと付近）。

個体の捕獲時の状況および場所

個体が見つかったのは、2023年4月23日の午前11時頃、飯能市内にある天覧山のふもと付近で、伐採した木や枝を積んでいる場所である（図1）。当時の気温は22℃であった。

性別はオス、捕獲時点で頭胴長1,210 mm、尾長320 mm、全長1,530 mmである。

捕獲個体の記載

1) 体鱗

体鱗は基本的に、すべて後端に2個の鱗孔があり、左右各3列目まではキールは無い。4列目からは弱いキールが確認できる。

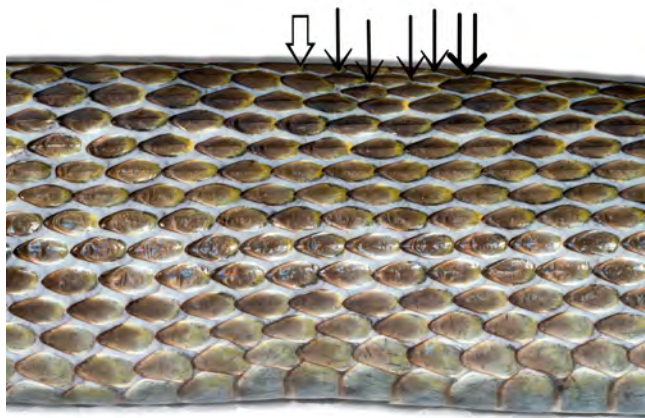


図2. 体鱗列数27列になっているアオダイショウの胴体中央部右側面（↓で増え、↑で減っている）。

体鱗列の増減について以下に記載する。

個体の体鱗は、腹板10枚目の位置で23列、腹板58枚目の右側6列目の体鱗が6列目と7列目に、同66枚目の左側6列目の体鱗が6列目と7列目にそれぞれ分岐して体鱗列が25列になっている。さらに腹板78枚目の位置で右側12列目が12列目と13列目、同82枚目で左側12列目が12列目と13列目にそれぞれ分岐して体鱗列が27列になる。27列の体鱗になったすぐ後ろの腹板81枚目で右側12列目と13列目が12列目、左側84枚目の位置で11列目と12列目がそれぞれ融合し11列目になり体鱗列25列になる。そのあと再び腹板83枚目の位置で右側12列目が12列目と13列目、同88枚目で左側12列目が12列目と13列目にそれぞれ分岐して体鱗列が27列になり、右側同86枚目と左側同93目で12列目と13列目が12列目にそれぞれなっている。その後は体鱗列が右側128枚目の腹板の位置で7列目と8列目、左側が同125枚目で7列目と8列目がそれぞれ融合して体鱗列が23列になる。同136枚目の腹板位置で右側6列目と7列目が、左側が同138枚目の位置で6列目と7列目がそれぞれ融合し体鱗列21列になり、同156枚目の位置で右側6枚目と7枚目が、157枚目の位置で5列目と6列目がそれぞれ融合し19列になっている（図2、3）。

2) 腹板、肛板、尾下板

腹板は、頭部下面で安定した形状の鱗を第1腹板として数え始め、肛板手前までで226枚あり、肛板は2枚、尾下板は98対で、これまでに記録されている記録の範囲内にある（日高ほか、1996）。

3) 頭部の鱗

上唇板は左右ともに8枚あり、うち4枚目と5枚目が目に

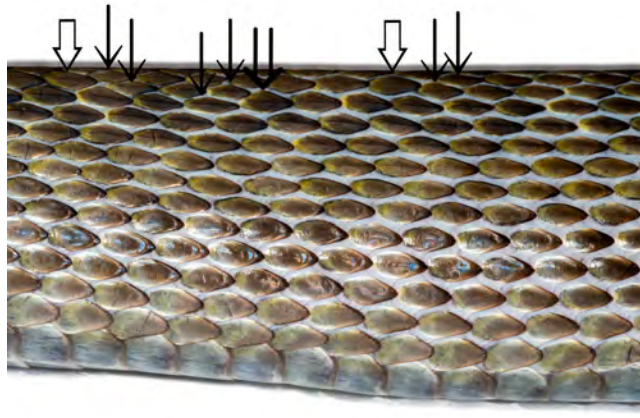


図3. 同左側面。矢印は図2と同様。



図4. 同右頭部側面.



図5. 同左頭部側面.

接する。下唇板は左右ともに11枚、咽頭板は前後に大きな差はなかった。ここまではほかの多くのアオダイショウと同じといえる。ただし、この個体では多くの個体で見られる眼前下板が左右側とも消失しており、側頭板も左右両側の前方側で歪な形質があらわれていた（図4、5）。

考察

この個体は体鱗形状や腹板数、色彩、頭部の鱗の形状を見る限り、一般的なアオダイショウと同様である。実際に一部を除き体鱗は25列の箇所があり、部分的にその箇所を見るとこれまで報告されてきたアオダイショウの記録と変わらない。この個体で見られるような体鱗数の事例はこれまで報告されておらず、25列から27列になり、25列に戻った後27列に再度なって、また25列に戻っているなど、あまりほかの個体では見られない体鱗列の配置をしている。このような体鱗の特徴を見ると、胴体中央における体鱗列数が発生の段階で27列の体鱗列になったと考えるのが普通であり、部分的に体鱗列の異常が現れた個体であると考えられる。また、これまでアオダイショウの体鱗数の変異についての研究や記載はなく、さらにヘビ類の体鱗について詳細な記載を伴う報告も多くない。今後、研究が進むことにより、このような記録のない数の鱗を持つ個体が新たに見つかることも考えられる。

謝辞

本研究にあたり、調査研究に協力してくれた森のフィールド学舎の三上晃誌氏、文献検索に協力して下さった一

般財団法人日本蛇族学術研究所の堺淳氏、徳田龍弘氏、査読を通して有益なご助言をいただいた同非常勤研究員の橋元浩一氏、寄稿に関してアドバイスをくださった群馬県立自然史博物館の木村敏之氏、高桑祐司氏に感謝の意を表したい。

参考文献

- 日高敏隆(監)(1996):日本動物大百科5両生類・爬虫類・軟骨魚類。平凡社、東京、189pp.
 松井正文・森哲(2022):新日本両生爬虫類図鑑。日本両生爬虫類学会(編)、サンライズ出版、滋賀、232pp.
 中村健児・上野俊一(1963):原色日本両生爬虫類図鑑。保育社、大阪、214pp.
 Peters, J. A. (1964): Dictionary of Herpetology - a brief and meaningful definition of words and terms used in Herpetology. Hafner Publishing Company, New York, 392pp.

捕獲日時: 2023年4月23日午前11時頃

捕獲時気温: 22°C

捕獲場所: 埼玉県飯能市飯能(北緯35.861471329079144, 東経139.31149164767066)

性別: ♂

頭胴長(Snout-vent length): 1,210 mm

尾長(Tail length): 320 mm

全長(Total): 1,530 mm

腹板数(Ventral): 226枚

尾下板数(Subcaudal): 98対

肛板数(Anal): 2(Divided)

上唇板(Upper Labial): R8(4,5) / L8(4,5)

下唇板(Lower Labial): R11 / L11

眼前板 (Preocular) : R1 / L1

眼後板 (Postocular) : R2 / L2

側頭板 (Temporalis) : R2+3 / L2+3

体鱗 (Dorsal rows) :

$$\begin{array}{cccccccc}
 \frac{6=6+7(58)}{6=6+7(66)} & \frac{12=12+13(78)}{12=12+13(82)} & \frac{12+13=12(81)}{11+12=11(84)} & \frac{12=12+13(83)}{12=12+13(88)} & \frac{12+13=12(86)}{12+13=12(93)} & \frac{7+8=7(128)}{7+8=7(125)} & \frac{6+7=6(136)}{6+7=6(138)} & \frac{6+7=6(156)}{5+6=5(157)} \\
 23 & 25 & 27 & 25 & 27 & 25 & 23 & 21 \\
 & & & & & & & 19
 \end{array}$$